



令和2年度決算 実質収支は18.1億円の黒字

— 今後はより積極的に新型コロナウイルス感染症対策に取り組みます —

令和2年度の財政運営は、様々な行政需要に適切に対応しながら、歳入面では新型コロナウイルス感染症対策の国庫補助金など特定財源の確保に努め、総じて健全な財政運営を行うことができました。その結果、一般会計の実質収支は18億1,100万円の黒字となり、単年度収支も令和元年度に続き黒字となりました。今後も引き続き、健全な財政運営を継続するために歳入の確保や歳出の適正化に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症対策に積極的な施策を講じます。

■一般会計の概要

決算収支の推移

(単位:百万円)

年度	H28	H29	H30	R元	R2
歳入	37,968	36,939	37,178	41,792	52,556
歳出	37,087	35,886	35,119	40,166	50,685
実質収支	682	905	1,131	1,478	1,811
単年度収支	△235	223	226	347	333

令和元年度に比べ、歳入は、地方消費税交付金を始めとする県税交付金や地方交付税が増加し、新型コロナウイルス感染症対策に係る国庫支出金が大幅に増加しました。歳出は、小中学校及び幼稚園のエアコン整備事業が減少しましたが、特別定額給付金給付事業や市の独自施策である「さきめしいこま」、妊婦特別給付金などの新型コロナウイルス感染症対策に係る事業費が大幅に増加しました。

■特別会計の概要

全ての特別会計（公共施設整備基金、介護保険、国民健康保険、後期高齢者医療）で黒字あるいは収支均衡となりました。

■財政関係指標等

◇財政指標

- ・経常収支比率は、歳入で地方消費税交付金を始めとする県税交付金が増加するとともに、歳出で退職手当、公債費等が減少したことから89.7%で4.6ポイント改善しました。
- ・実質公債費比率は、生駒北学校給食センターPFI事業の施設整備費が減少したことで単年度の数値は改善しましたが、3ヶ年平均では4.6%と横ばいになりました。
- ・実質赤字比率は-％（△7.64%）、連結実質赤字比率は-％（△29.71%）、将来負担比率は-％（△96.3%）となりました。

◇積立基金・市債残高

- ・積立基金残高は98億7,700万円で、令和元年度の実質収支を各種基金に積み立てたことにより、前年度から6億6,600万円増加しました。
- ・普通会計の地方債残高は166億5,100万円で、これまでに借入れた地方債の償還が進んだことなどにより前年度から6億2,600万円減少しました。

この件に関する報道関係からのお問い合わせ

生駒市財政課（課長 小澤） ☎0743-74-1111(内線 271)